

たかみや 人権会館だより

No.14

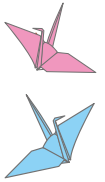
CONTENTS (主な内容)

- 平和への道
- 最期まで自分らしく生きる
- 記念講演会のご案内

男女共同参画とまちおこし講座

平和への道

広島に原爆が投下されて、71年目の本年、オバマ大統領が現職の米大統領として、初めて平和記念公園を訪れました。世界中がこの歴史的な深い意義に注目する中、たかみや人権会館にて、二度の講演会をおして市民の皆様と共に平和について考え、願う活動を行いました。



8月6日、高宮町在住の浅原晃さんが、ご自身の壮絶な被爆体験を「生死を共にした近距離被爆者の願い」というテーマで聴かせていただきました。

ただきました。18歳で召集令状を受け、入隊、軍隊演習の日々を送っていた浅原さんは、あの日、爆心地から1km以内で直接被爆されました。共に行動をしていた戦友が全て閃光と熱線で焼死した中で、偶然にも盾となった電柱に守られ、奇跡的に浅原さんだけが助かりました。その時、辺りはあらゆる物に火が燃え広がり、火傷を負い痛々しい体となった人々の悲鳴や無残な死体など言語に絶する光景だったそうです。今でもその記憶は鮮明に残り、忘れることはできないと語られました。浅原さんは、その後、ひどい脱毛と皮膚火炎症を患われたそうです。現在は、県北各地で被爆体験を語り

れており、平和の実現は険しい道のりであることを実感しながらも辛抱強く、祈る平和から創る平和へと活動を続けておられます。



8月27日には、これからの最も重要な課題である次世代への継承について考える講演会を開催しました。「記憶の継承」と題し、講師として

広島平和記念資料館館長の志賀賢治さんをお招きし、お話を伺いました。広島平和記念資料館設立の経緯、これまでの取り組み、これから目指すことなどをお話しいただく中、世界各国の人々の意識が、これまで目を背けていた広島長崎の被爆の実相を、「知っていただく、展示を見てみよう」に少しずつ変わってきたことを強調されました。このことは、平和記念資料館や被爆者の方々の長年にわたる取り組みや、語り伝え続けてきた強い思いと努力が、ようやく世界の人々の心を動かし始めたのだと感じました。

被爆をされた方は高齢となり、悲惨な体験を語り継がれる方は年々減少しています。記憶の風化が懸念される中、今を生きる私達は、核兵器のない世界、平和な世界の創造の為に、負の歴史が忘れられることのないよう、行動しなければなりません。

最期まで自分らしく生きる

皆さんは、高齢になられて、誰かの手を借りないと生活することができなくなった時のことをイメージされていますか？ そんなことを考えるのは、わずらわしいし、誰かがなんとかしてくれらるるう、昔はみんなそうだったのだから。社会の状況、家族の在り方が随分変わってきた現代、自分の生きる道はある程度は自分で決めて心構えしておかないと、ご家族もご自分も苦しい思いをすることになります。



4月17日に、ノンフィクションライターの中澤まゆみさんを講師に、「最期まで在宅で暮らすために」と題して、講演いただきました。中澤さんは、在住の世田谷区で、在宅ケアを考える区民の会に参加し、2014年に誰でも参加できる「ケアコミュニティ・せたカフェ」を立ち上げ、住民からの地域包括ケアを発信しています。

住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けていくには、どうしたらいいでしょう。最期まで健康で、家族に看取られて生きるのが理想的ではありますが、長寿化社会である今は、病气や認知症と向き合って生きていくことが、少

裏面へ続く

なくありません。5月15日の時のために、元気なうちに家族と話し合い、準備をしていきたいものです。地域包括支援センター、行政の支援は必要ですが、不安を自分一人の胸のうちにしまわずに誰かに伝えること、かかりつけ医、身近で相談できる人、地域等の支援体制など、そういった地域・まちづくりが、今からとても大事だと感じる内容でした。

6月10日に、高齢生活研究所所長・排泄用具の情報館「むつき庵」代表の浜田きよ子さんを講師として、「排泄ケアが暮らしを変える」と題して、講演いただきました。



受講された方が、おむつを実際に装着して、おむつの付け具合を体験しながらお話を聞きました。おむつには、市販されている種類がかなり多くあり、サイズや付け方によっても、快適かそうでないかの違いがあることがわかりました。排泄は、食べることや体を動かすこと、暮らしの全てに関わります。

介護する側、介護される側になった時に、不安を少しでも取り除くために、排泄用具のことも知っておく、家族や親しい人と、自分がどうしたいのか、共有しておくことが大切であると感じる内容でした。

世界人権宣言 68 周年記念講演会



学校も 地域も



こどもが安心できる場に

映画「みんなの学校」の実践より



関西テレビ 報道局配属
さがわ みどり
迫川 緑さん

《プロフィール》

1992年関西テレビ放送入社。ドキュメンタリー番組にも多く携わり、主な作品に「想いを伝えて～阪神淡路大震災 父子が歩んだ20年」障害の有無に関わらずともに学ぶ大阪市立大空小学校を長期取材し、夫（監督）とともに映画「みんなの学校」を制作。

とき

12月11日 日 13:30 ~ 15:00

ところ

たかみや人権会館

入場無料

主催：安芸高田市たかみや人権会館

共催：世界人権宣言高宮実行委員会・安芸高田市人権協会

お問い合わせ：たかみや人権会館 ☎・お太助フォン 57-1330